

就労支援に向けたアセスメントの活用に関する研究

— キャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例の開発 —

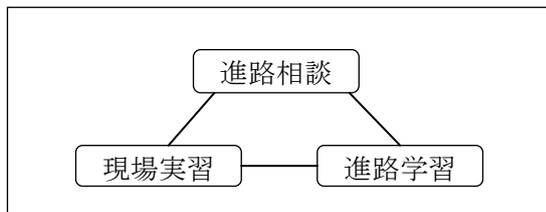
山田 良寛¹ 由谷 るみ子¹

就労支援に向けて構築されたキャリアアセスメントを進路指導に位置付けて活用するため、進路相談及び進路学習の実施状況を調査し、キャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例及び進路相談を進めるためのワークシートの開発を行った。調査研究協力校の協力を得て進路相談モデル例を試行し、その有効性について検討した。

はじめに

特別支援教育推進課では、平成 24 年度研究において就労支援に向けた新しいアセスメントとして「キャリアアセスメント」を構築し、平成 25 年度から特別支援学校等アセスメント事業として実施している。平成 24 年度研究では今後の課題として、キャリアアセスメントの進路指導への位置付け等が挙げられた。

内海 (2004) は、主体的な進路選択と社会参加のために、進路学習・現場実習 (進路体験)・進路相談を計画的かつ相互関連的に組織する進路指導のモデルを提案している。(第 1 図)



第 1 図 進路指導の構成 (内海 2004 を参考に作成)

進路学習について原・緒方は、『自己理解』『将来設計』という領域は、『職業的・社会的な移行』を支援するという以上に、内面的変化を促す重要な領域である (原・緒方 2004 p. 36) とし、キャリア発達支援のために、「進路学習における『自己理解』や『将来設計』に関する情報提供支援、評価の方法等の開発が特に重要な課題となる」(原・緒方 2004 p. 40) としている。キャリアアセスメントは、受検者の職業に関する自己理解及び体験的職業理解の促進という特徴を持ち、生徒の「自己理解」や「将来設計」を支援するために有効な体験、評価、情報提供を行うことができると考えられる。

そこで本研究では、キャリアアセスメントを進路相談の一環と捉え、働く体験と振り返りを通して自己理解、職業理解を深め、主体的な進路選択を支援するた

め、キャリアアセスメントを活用した進路相談のモデル例及び進路相談を進めるためのワークシートを開発し、調査研究協力校等での試行を通してその有効性について検討することとした。

研究の目的

キャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例及び進路相談を進めるためのワークシートを開発し、特別支援学校における就労支援に向けた進路相談の充実を図る。

研究の内容

1 研究の推進体制

本研究の推進体制は第 1 表のとおりである。

第 1 表 研究の推進体制

助言者	文京学院大学 松為信雄教授
調査研究協力校	座間養護学校、相模原養護学校
調査研究協力員	調査研究協力校総括教諭または教諭 各 1 名 進路指導担当教諭 1 名 社会自立支援員 (企業経験者) 1 名
調査研究協力員会	助言者、調査研究協力員、当センター職員、長期研究員が参加し、平成 25 年度内に 3 回開催

2 研究の構成

本研究は次の二つの内容で構成される。

- ・研究 1 県立特別支援学校知的障害教育部門高等部分教室における進路相談及び進路学習の実施状況調査
- ・研究 2 キャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例の開発及び試行

3 研究 1 県立特別支援学校知的障害教育部門高等

1 特別支援教育推進課 指導主事

部分教室における進路相談及び進路学習の実施状況調査

(1) 調査の概要

調査の概要を第2表に示す。

調査の対象を分教室とした理由は、キャリアアセスメント受検者が満たす要件と分教室の志願条件に類似点があるため生徒の実態が比較的近いこと、分教室では卒業後企業等へ就労する生徒の割合が高いことによる。なお、本研究と関連、並行して平成25年度長期研究員による研究も進められた(塩沢 2014)。両研究は、キャリアアセスメントの有効性を検討する点で目的を共有し、得られた知見を相互に活用している。第2表の調査2については塩沢(2014)による。

第2表 調査の概要

対象	県立特別支援学校知的障害教育部門高等部 20 分教室
方法	質問紙への回答を電子メールで依頼、電子メールで提出
回答者	分教室長、進路指導担当教諭等
実施時期	平成 25 年 7 月～8 月
回収率	100%
調査 1	現場実習のための進路相談実施状況
○設問 1 進路相談に関する項目 A～J の実施状況を、「ほぼすべての生徒に対して実施」、「一部の生徒に対して実施」、「現在のところほとんど実施していない」から選択して回答	
A 実習先選定のための興味・関心の聞き取り	
B 具体的な実習内容の事前情報提供	
C 現場実習の目的説明	
D 生徒との相談による実習目標検討	
E 現場実習と他の学習の目標の関連	
F 現場実習後の生徒からの聞き取り	
G 現場実習評価の本人への説明	
H 生徒との相談による課題に対する取組検討	
I 現場実習での課題を他の学習場面に関連付けた指導	
J 卒業までの進路学習、進路決定のスケジュールの説明	
○設問 2 進路相談の実践上の工夫と課題を自由記述	
調査 2	進路学習の実施状況 (塩沢 2014)
(本研究と直接関連する部分のみ)	
○設問 2 進路学習や個別教育計画に関する項目 A～H の取組状況を「取り組んでいる」「今後の課題である」「その他 (具体的に記述)」から選択して回答	
A 個別教育計画の作業学習に関する項目の設定	
B 個別教育計画の進路学習に関する項目の設定	
C 作業学習での生徒自身の学習目標の意識	

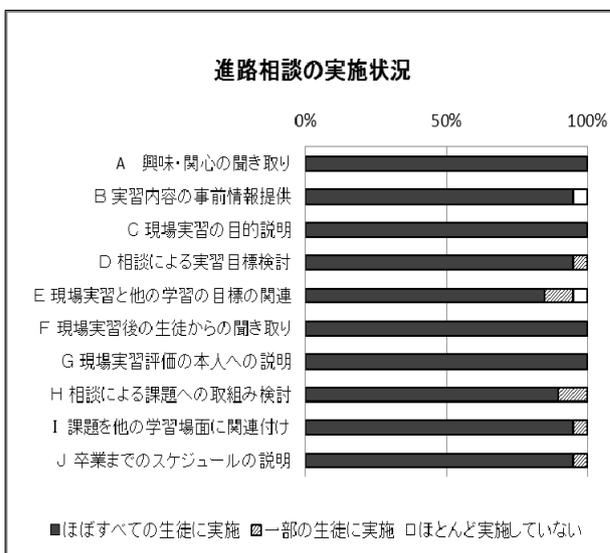
- D 進路学習での生徒自身の学習目標の意識
- E 進路学習での「暮らす」、「楽しむ」内容の学習計画
- F 高等部3年間の積み上げを意識した進路学習計画
- G 現場実習等と他の学習場面を関連付けた指導
- H 自己理解促進のための進路学習と現場実習等との関連付け

(2) 結果

ア 調査 1

設問1の回答結果は第2図のとおりであった。「一部の生徒に実施」と回答した項目がある分教室は、実施対象生徒に関する補足説明として、「担当教員によって実施されている場合がある」、「(目標等は生徒と相談するというより) 伝えるというスタンスである」、「内容を十分に理解できる生徒に説明している」と記述した。

設問2の自由記述の一部を第3表にまとめた。



第2図 調査1設問1の回答

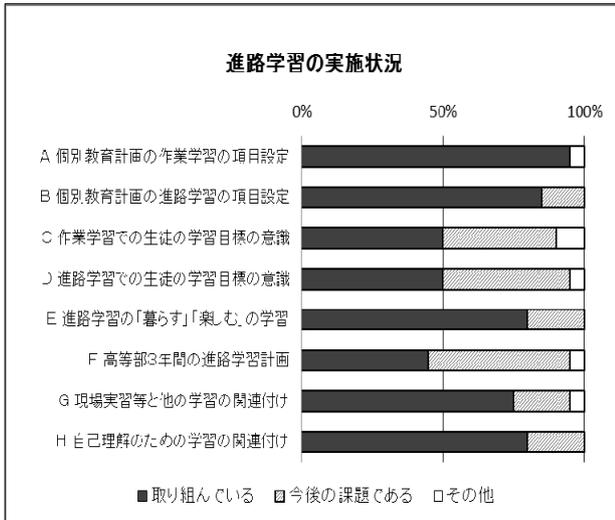
第3表 調査1設問2の自由記述 (一部)

- ・生徒自身が課題意識を持って実習等に取り組んだり、振り返ったり、次の課題を見つける機会となるように努めている。
- ・見たことがない、または身近でない職域や職種を説明してもなかなか理解が難しいところがある。
- ・進路相談においては、自己理解を深めること、自己肯定感を持つことを目的としている。自分自身を知ること(得意なこと、苦手なこと)が課題解決の大きなベースとなる。
- ・生徒への進路相談をより丁寧に行うことで、卒業後に働く意欲を高めることが課題である。
- ・生徒が自分の言葉で、進路希望を語れるようになってほしい。そのためには、進路先が先にありきではなく、ゆっくり3年間をかけてどのような仕

事があるか、それにはどんな力を付けなければならないかを指導していきたい。

イ 調査2（設問2）

回答結果は第3図のとおりであった。



第3図 調査2 設問2の回答

(3) 考察

調査1、調査2設問2 A・B、調査2設問2 C・Dの回答結果から、分教室においては現場実習のための生徒への進路相談は概ね実施され、個別教育計画での作業学習、進路学習等の項目立ては行われているが、生徒自身が学習の目標を意識することは課題であることが分かる。現場実習での課題を生徒自身の日頃の授業の取組につなぐ部分に弱さがあると言える。進路相談を体験的に働く学習と日常の学習とをつなぐ機能を持つものとして捉え直し、充実させることが大切と考える。

調査1設問2（第3表）の自由記述から、本人を学習及び進路選択の主体として捉えることが大切と考える分教室が多いことが示唆される。原・緒方は、個別移行支援計画を実践する上で「主体性の育成（自己選択・決定）と将来の生活設計を担う学習、すなわち『進路学習』の具体を各校の教育課程にどう位置づけるかが重要」（原・緒方 2004 p. 34）としている。調査2設問2 Fの回答結果から、半数の分教室が三年間の積み上げを意識した進路学習の計画を「今後の課題」としており、進路選択に向けた学習計画を生徒に提示することが難しい状況が推察される。生徒が見通しを持って進路選択や卒業後の生活に向けた学習に取り組むために、必要な指導内容の検討を進めることが大切である。

また自由記述の内容からは、自己理解、職業理解、振り返りの学習等が大切と考える分教室が多いことが示唆される。現場実習等の体験的に働く学習において、生徒を学習の主体と捉え、事前のガイダンスや目標の設定、体験に基づいた事後の振り返り、その後の学習

課題等の本人に対する意識付けを進路相談の中で丁寧に行うことが実践上大切になるであろう。

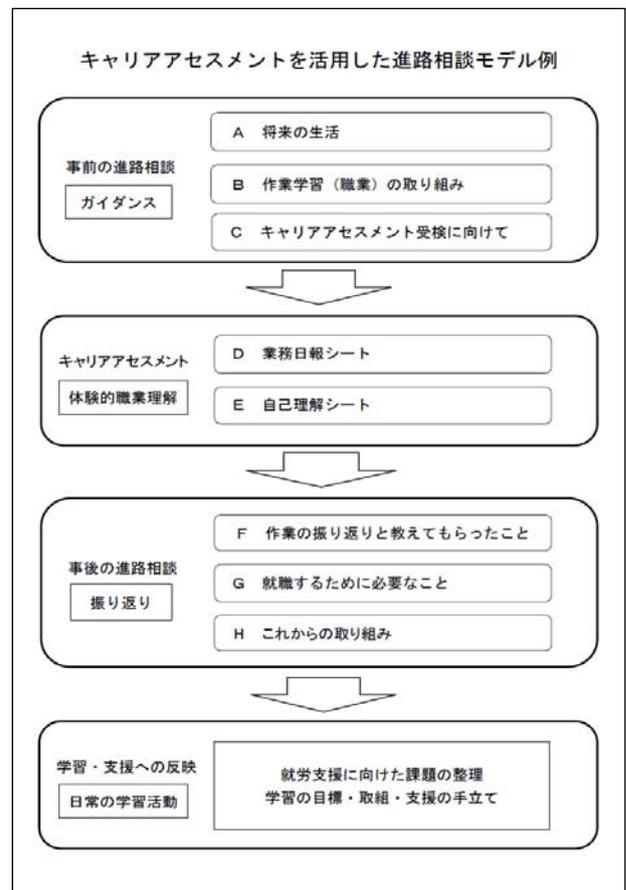
以上の考察を基に、研究2ではキャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例（以下、進路相談モデル例という。）及び進路相談のためのワークシートを開発した。

4 研究2 キャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例の開発及び試行

(1) 進路相談モデル例の開発

研究1の考察を踏まえ、キャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例を開発した。（第4図）

進路相談モデル例は、キャリアアセスメントを模擬的に働く場と捉え、受検前のガイダンス、受検後の振り返りを行うとともに、就労準備性等の課題を学習上及び生活上の取組へとつなぐ部分をサポートし、進路相談の充実を図るものとして構想した。



第4図 進路相談モデル例

進路相談モデル例の流れは、キャリアアセスメント受検前に学校で行う「事前の進路相談」、センターで行う「キャリアアセスメント」、キャリアアセスメント受検後に学校で行う「事後の進路相談」及びその後の「学習・支援への反映」から成る。

また、進路相談を効果的に実施できるよう、ワークシートA～Hをモデル例と併せて開発した。（第5図～

第10図)

次に、各ワークシート内容及び開発の意図について述べる。

ア 事前の進路相談

(ア) 将来の生活 (第5図)

受検者が卒業後の生活についてのイメージを整理する。「卒業後の進路」、「希望職種」等6項目から成る。

(イ) 作業学習 (職業) の取り組み (第6図)

受検者が日頃の作業学習 (職業) の取組を自己評価する。「身だしなみ」、「あいさつ」、「返事」等15項目から成る。

後述の「実態把握シート」(教員用、第11図)と15項目の観点を揃え、教員の評価と受検者の自己評価の両方を把握できるようにした。

(ウ) キャリアアセスメント受検に向けて (第7図)

受検者がキャリアアセスメント受検に当たって必要な事柄を、事前に学習する。「私の受検目的」、「面接に備えて」等10項目から成る。受検者自身がキャリアアセスメントの内容、受検目的等を理解しておくことが大切と考えて項目を作成した。

「私の受検目的」等の内容は、キャリアアセスメント当日の「面接1」(現場実習等の事前に行われる企業等での面接を模したもの)での質問事項にもなっている。

A 将来の生活		
項目	質問	答え
1	卒業後の進路はどのような道に進みたいですか	① 卒業したら、すぐに就職したい ② 卒業したら、働くことについてもっと勉強してから就職したい ③ 卒業したら、自分の好きなことを勉強したい ④ 将来のことはまだわからない
2	希望職種 (当てはまるものをすべて選んでください)	① 掃除をする仕事 ② 調理に関する仕事 ③ 物を作る仕事 ④ 物を売る仕事 ⑤ 品物を集める・分ける仕事 ⑥ 書類を作る仕事 ⑦ 人の世話をする仕事 ⑧ パソコンに入力する仕事 ⑨ 野菜などを育てる仕事 ⑩ 動物の世話をする仕事 ⑪ その他 ()
3	希望月収 (一か月の給料はいくら欲しいですか)	① 千円~1万円 ② 1万円~5万円 ③ 5万円~10万円 ④ 10万円~15万円 ⑤ 15万円以上 ⑥ その他 ()
4	労働時間 (一日に何時間働きたいですか)	① 3時間~4時間 ② 5時間~6時間 ③ 7時間~8時間 ④ その他 ()
5	交通機関 (ひとり利用できる交通機関は何ですか)	① 電車とバス (乗り換え) ② 電車 ③ バス ④ 徒歩 ⑤ その他 ()
6	ひとり暮らし (将来、ひとり暮らしがしたいですか)	① ひとり暮らしがしたい ② 家族と暮らしがしたい ③ わからない ④ その他 ()

第5図 将来の生活

イ キャリアアセスメント

キャリアアセスメント当日、受検者は検査の中で作業状況等を振り返る。そのために「業務日報シート」、「自己理解シート」を使用する。これらは学校における事後の進路相談で活用するため、検査終了後コピーを学校に提供する。

なお、「業務日報シート」、「自己理解シート」は平成24年度研究で開発済みである。図等の詳細は山田・廣瀬 (2013) を参照。

(ア) 業務日報シート

キャリアアセスメント当日、受検者は作業検査ごとに自身の作業遂行状況を振り返り、「業務日報シート」に自己評価と、どんなことに気を付けたらうまく作業ができるかを記入する。

(イ) 自己理解シート

キャリアアセスメント当日の「面接2」では、日常生活習慣等についての聞き取りの後、「自己理解シート」を使って、当日の検査の振り返り、作業の得意・不得意、好きな仕事、コミュニケーション・対人技能・ストレスへの対応について聞き取る。

ウ 事後の進路相談

(ア) 作業の振り返りと教えてもらったこと (第8図)

受検者が「できた作業」、「難しかった作業」、「教えてもらったこと」を記入する。

B 作業学習 (職業) の取り組み () 班						
項目	内容	できる	だいたいできる	あまりできない	できない	メモ
1	出席	毎日遅刻せず登校する				
2	時間	休憩時間を守って次の授業に参加する				
3	身だしなみ	作業に合わせた服装をし、身だしなみを整える				
4	あいさつ	自分からあいさつをする				
5	返事	相手にわかるように返事や受け答えをする				
6	質問	わからないときは自分から質問する				
7	報告①	作業が終わったら報告し、次の指示を受ける				
8	報告②	ミスが気付いたら自分から報告する				
9	態度	指示や注意を素直に聞く				
10	持続力	作業の時間中は真面目に仕事を続ける				
11	速さ	時間内により多く (速く) 作業をしようと努力する				
12	正確さ	一度覚えた仕事はミスなく行う				
13	丁寧さ	道具や材料を丁寧に扱う				
14	安全	けがをしないように作業する				
15	準備・片付け	進んで作業の準備や片付けをする。				

第6図 作業学習 (職業) の取り組み

C キャリアアセスメント受検に向けて

1 受検日時	月 日 曜日		
2 検査時間	: ~ :		
3 行き先	総合教育センター(亀井野庁舎)		
4 待ち合わせ	時間 :	場所	引率の先生
5 交通機関	自宅～ ～総合教育センター(亀井野庁舎)		
6 内容			
7 私の受検目的			
8 持ち物			
9 服装			

Cは次のページに続きます

10 面接に備えて	次の質問に答えましょう。
自己紹介	(1) 学校名と名前を言います。
利用する交通機関	(2) ①当日、自宅を出発して総合教育センターに到着するまでに利用する交通機関を説明しましょう。
	②自宅の最寄駅はどこですか。
	③どのくらい時間がかかりますか。
学習の振り返り	(3) 今までに現場実習に取り組んだことがありますか。 <取り組んだことがある人> ①どんな仕事をしましたか。 ②よくできたこと、難しかったことは何ですか。 <まだ取り組んだことがない人>は、学校での作業学習(職業)の仕事について教えてください。
長所	(4) 自分の長所を説明しましょう。
学習の目的	(5) なぜキャリアアセスメントを受検するのか説明しましょう。

第7図 キャリアアセスメント受検に向けて

F 作業の振り返りと教えてもらったこと



1. ナプキン作り



2. 取組チェック



3. 器具計測



4. プラゲ・タッグ組立



5. 物品録手帳作成



6. 数値入力



7. 写真入力



8. コピー用紙入力



9. PC入力

	作業名	理由
できた作業		
難しかった作業		
教えてもらったこと		

第8図 作業の振り返りと教えてもらったこと

G 就職するために必要なこと

項目	内容	できた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった	これから気を付けること
1 面接1	丁寧な言葉で話し、礼儀正しく振る舞う					
2 朝礼	担当者の話をよく聞き、まじめに参加する					
3 身だしなみ	作業に合わせた服装をし、身だしなみを整える					
4 あいさつ	自分からあいさつをする					
5 返事	相手にわかるように返事や受け答えをする					
6 質問	わからないときは自分から質問する					
7 報告①	作業が終わったら報告し、次の指示を受ける					
8 報告②	ミスに気付いたら自分から報告する					
9 態度	指示や注意を素直に聞く					
10 持続力	作業の時間中はまじめに仕事を続ける					
11 速さ	時間内により多く(速く)作業をしようと努力する					
12 正確さ	一度見た仕事はミスなく行う					
13 丁寧さ	道具や材料を丁寧に扱う					
14 安全	けがをしないように作業する					
15 準備・片付け	進んで作業の準備や片付けをする					

第9図 就職するために必要なこと

「教えてもらったこと」の欄は、作業に関するセルフマネジメントの観点からキャリアアセスメントの検査担当者から助言を受けた内容を振り返り、受検後の学習や支援につなげるために設定した。

(イ) 就職するために必要なこと (第9図)

受検者がキャリアアセスメントの作業等への取組を振り返り、就労準備性のうち主に基本的労働習慣、対人技能の観点から自身の課題等を把握する。「朝礼」、「身だしなみ」等15項目から成る。

「これから気を付けること」は、自己評価と担任等との相談を基に「これからの取り組み」(第10図)に結び付く内容を主に記入する。

「就職するために必要なこと」のほとんどの項目は、事前の進路相談で使用する「作業学習(職業)の取り組み」の各項目と観点を揃え、日常の学習状況とキャリアアセスメント受検時の状況の両方を自己評価できるようにした。

(ウ) これからの取り組み (第10図)

「作業の振り返りと教えてもらったこと」、「就職するために必要なこと」等で明らかになった作業に関するセルフマネジメントや就労準備性等の課題に対し「私の目標」、「取り組み(学校で/家庭で)」を記入する。

キャリアアセスメントの体験を基に受検者が自身の学習上、生活上の目標や取組を意識できるようにした。

H これからの取り組み (先生と相談して書きましょう)	
私の目標1	
取り組み1	学校で
	家庭で
私の目標2	
取り組み2	学校で
	家庭で
私の目標3	
取り組み3	学校で
	家庭で

第10図 これからの取り組み

エ 学習・支援への反映

受検者は、事後の振り返りの「これからの取り組み」を基に、自身の就労準備性等の課題や具体的な目標を意識して、作業学習、進路学習等を含む日常の授業に取り組む。

併せて、教員は、個別教育計画の目標、支援の手立て等について再検討し、必要に応じてその内容を修正する。受検者の就労準備性等の課題を意識して授業等での指導を行う。また、家庭での取組については、保護者と連携、協力して実施することを意図した。

オ 実態把握の支援(教員用)

就労準備性のうち主に基本的労働習慣、対人技能の観点からの実態把握を支援するため、相澤(2007)を参考に「実態把握シート」(第11図)を作成した。

受検者の担任等が、キャリアアセスメント受検前日頃の作業学習等の状況を基に一度記入し、キャリアアセスメント受検当日の観察時に再度記入する等、受検者の実態を多面的に把握するため、複数回記入できるようにした。

(2) 進路相談モデル例の試行

ア 試行の枠組み

開発した進路相談モデル例及びワークシートを、調査研究協力校の協力を得て試行した。調査研究協力校には、個別に進路相談の場と時間を設定して進路相談モデル例に沿って実施するよう依頼した。試行の枠組みは第4表のとおりである。

また、第4表のほかに、塩沢(2014)は藤沢養護学校鎌倉分教室の1・2年生4名に対して、進路相談モデル例のワークシートを一部改変して実施した。

第4表 試行の枠組み

調査研究協力校	座間養護学校(相模向陽館分教室) 相模原養護学校(橋本分教室)
試行期間	平成25年7月下旬～平成25年9月中旬 キャリアアセスメントは9月上旬に実施
受検者数等	知的障害教育部門高等部1・2年生6名 療育手帳の段階 B2=5名、なし=1名
事後の聞き取り調査	9月中旬に実施 <主な内容> 進路相談モデル例の流れ 各ワークシートの内容 進路相談に関わった教員の気付き等

イ 結果

試行後に調査研究協力校を訪問し、聞き取り調査を行った。聞き取った主な内容を示す。

(7) 進路相談モデル例の流れ

- ・進路相談モデル例の流れについては円滑であった。
- ・ワークシートが進路相談を行うきっかけになり、時間を設定できた。ワークシートがあると教員が進路相談を実施しやすい。
- ・事後の進路相談の所要時間は、生徒の実態と内容の扱い方により10分～3時間程度と幅が見られた。
- ・座間養護学校相模向陽館分教室では独自に「進路選択に向けた高等部3年間のスケジュール」(第12図1～3)を作成し、進路相談モデル例の事前の進路相談の内容に加えて使用した。

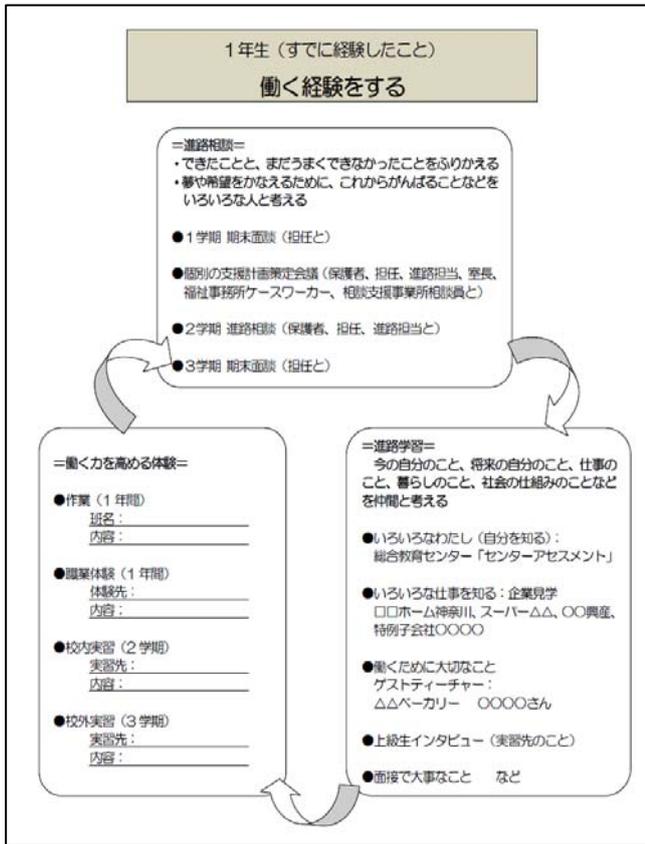
実態把握シート（作業学習、校内実習等）

対象生徒（ ）

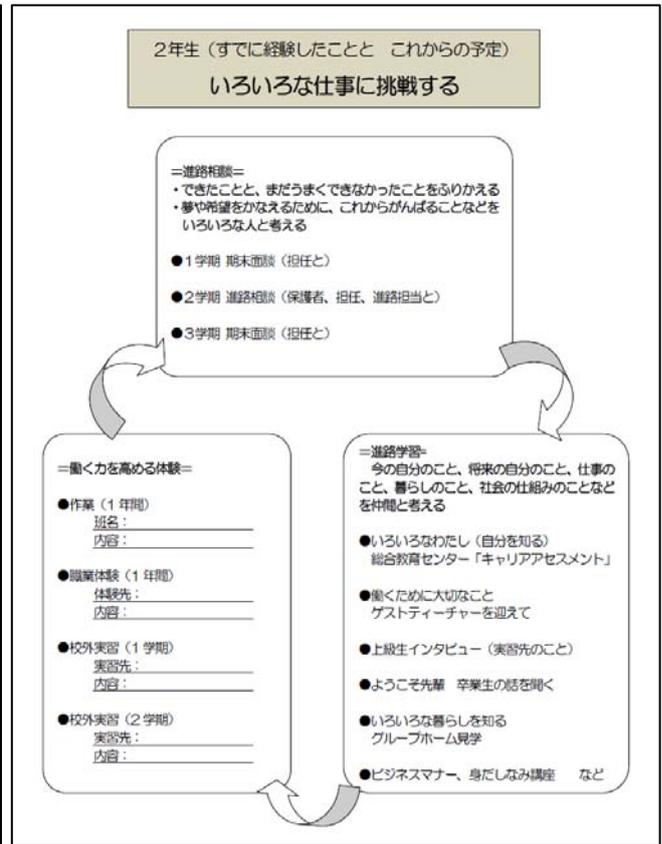
教員記入

項目	段階の目安	A 就職のセールスポイント	B 就職に支障はない	記入日	記入者	メモ
		C 若干改善が必要	D 大幅な改善が必要			
1 出席状況	A 健康で風邪などもほとんどひかず、ほぼ欠席はない。 B 一年に数回は風邪や体調不良で欠席することもあるかもしれないが、欠席期間は短い。 C 多くはないが時々（遅刻や）欠席がある。 D 風邪や体調不良によりよく欠席する。体調を崩すと長引き、欠席が多くなる。					
2 作業の時間を守る	A 休憩時間内に所用（トイレなど）を済ませ、休憩終了時にはすぐ作業を始められる。 B たまに指示を出す必要があるが、概ね問題はない。 C 作業時間と休憩時間の区別について理解しているが、ややルーズになるため、注意が必要である。 D 常に指示を出さないと作業開始時に作業場に戻れないなど、問題が出やすい。					
3 作業時の身だしなみ	A 指示されなくても作業に合わせた身だしなみができる。 B 事前に具体的な指示を出せば（靴は～を履きなさい等）、作業に合わせた身だしなみができる。 C 時々指示を出す必要がある。 D 指示を出しても従えないことがあり、常に具体的な指導・介助が必要である。					
4 あいさつ	A 来訪者など面識のない人に対しても、適切にあいさつすることができる。 B あいさつで就労上の課題になることはない。（声が出せなくても動作等で気持ちが伝わる場合も含む） C その時の気分や相手によっては適切なあいさつができないことがある。 D 適切なあいさつをするためには課題が多く、常時指導が必要である。					
5 返事・応答	A 適切な態度で積極的に行い、相手に好印象を与える。 B 返事や応答で就労上の課題になることはない。 C 若干指導が必要な面もある。（返事をする時指導者の方を向かない、時々的外れな回答をする等） D 適切な返事・応答をするためには課題が多く、常時指導が必要である。					
6 わからない時の質問	A いつでも（慣れない場面でも）わからない点は適切に質問できる。 B 慣れるに従って、自発的に質問し、わからない点を説明できる。 C 自発的に質問はできるが、何がわからないのか十分説明できず、指導者が具体的に聞き出す必要がある。 D わからない時に、もじもじしている等の態度をし、指導者の声掛けが必要である。					
7 作業終了の報告	A 自分の作業が終了したら自発的に指導者に報告し、次の指示を受けることができる。 B 作業終了の報告で就労上の課題となることはない。 C 時々指導する必要がある。 D 指導しても自発的な報告はなかなかできない。					
8 作業ミスの報告	A ミスがわかると自発的に指導者に報告し、ミスの内容を伝えるとともに、改善の方法も考えられる。 B ミスがわかると自発的に指導者に報告し、ミスの内容も伝えられる。 C 指導者に報告するが、正確に伝えられず、内容などを指導者が聞き出す必要も時々ある。 D ミスの報告がほとんどできず、指導者がチェックする必要がある。					
9 注意や指示を受ける時の態度	A 注意や指示を受けたときは適切な態度で聞くことができ、指示に素直に従える。 B 注意や指示を受ける態度で就労上の課題になることはない。 C 時々素直に従えないことがあるが拒否的になることはない。 D 素直に従えないことが多い。					
10 作業の持続力	A どんな作業でも与えられた作業に対しては、むらの無い態度で熱心に最後まで取り組む。 B 作業上の持続力が就労上の課題になることはない。 C 興味のある作業では問題ないが、作業によっては若干課題（飽きやむら）が出てくる。 D 興味を示した課題に対しても、時々指示を出す必要がある。					
11 作業速度	A 一般従業員の中に入っても作業スピードの点ではアピールできる。 B 作業速度が就労上の課題になることはない。 C 慣れば作業速度が就労上の課題になることはない。 D ある程度作業に慣れても、作業速度は遅く就職を考える際には事業所の配慮が必要である。					
12 作業の正確さ（概ね理解できる作業について）	A 一旦覚えた作業は確実に言い、ミスは出ない。 B ほとんど出ない、作業ミスが就労上の課題にならない。 C 作業ミスが出るときもあり、時々指導する必要がある。 D 作業ミスが多い。					
13 作業の丁寧さ	A 部品や道具を丁寧に取り扱い、安心して任せられる。 B 部品や道具の取り扱いでは特に課題はない。 C 一部雑な面があり、時々指導する必要がある。 D 部品や道具の取り扱いなど、作業が雑で、就労上の課題である。					
14 安全性	A 危険な操作、立ち入ってはいけない場所等やその理由がわかり、安全に作業できる。 B 作業の安全性に特に課題はない。 C 指示通りでない操作が見られる、安全に関する指示が守れないことがあり、注意が必要である。 D 常時注意が必要である。					
15 準備・片付け	A 自発的に道具や材料を用意し、段取りよく準備したり、道具や材料をもとの正しい場所に収納したり、作業終了後掃除をしたりする。 B 定型的な準備・片付けは問題ない。 C 時々指示を出せばできる。 D 常に具体的な指示を出さないとできない。					

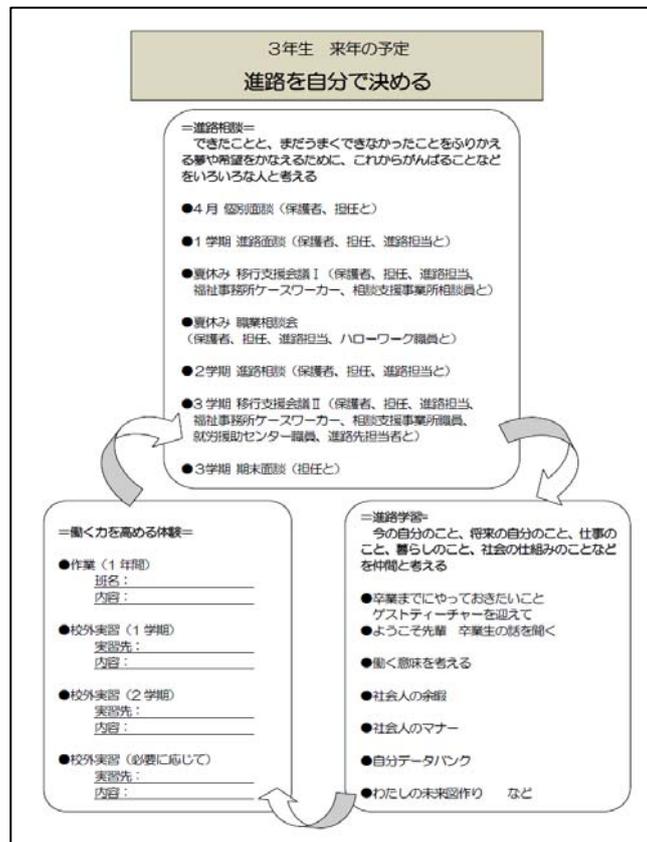
第 11 図 実態把握シート



第 12 図 1 進路選択に向けた高等部 3 年間のスケジュール (1 年生)



第 12 図 2 進路選択に向けた高等部 3 年間のスケジュール (2 年生)



第 12 図 3 進路選択に向けた高等部 3 年間のスケジュール (3 年生)

(イ) 各ワークシートについて

a 将来の生活

- ・将来の生活についての生徒の考えが分かって良い。
- b 作業学習（職業）の取り組み
- ・各項目の質問文が具体的に書かれていて、作業学習や現場実習の個別の学習目標としても生かすことができる。
 - ・作業学習の時間の集団での学習課題としても良い。
 - ・ある特定の作業場面、日々の作業全般等のうち、どの場面を想定して回答するかが分かりにくい場合があった。

c キャリアアセスメント受検に向けて

- ・受検者自身がキャリアアセスメント受検の目的を捉えた上で受検できたので良い。

d 作業の振り返りと教えてもらったこと

- ・特に「教えてもらったこと」の欄は学校での支援に生かせる。
- ・生徒によっては「難しいけれどできた作業」という場合もあり「できた」と「難しい」で簡単に分けられないことがある。

e 就職するために必要なこと

- ・項目立てが指導上の目標設定の参考になる。
- ・「これから気を付けること」の欄は「これからの取り組み」につながる大切な部分である。

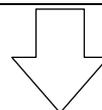
f これからの取り組み

- ・作業学習や現場実習での目標設定に生かせる。
- ・事後の進路相談の後、日常の授業でも「姿勢を正しく」等生徒自身が意識して取り組んでいた。
- ・「就職するために必要なこと」に生徒が○を付ける様子を見ながら、生徒と教員が相談して記入した。
- ・キャリアアセスメントでの体験に基づいて具体的な取組を記入した。目標と取組を五つ考えた生徒もいた。(当センターが提供したキャリアアセスメント評価票の一部と事後の進路相談で受検者が記入したワークシートを第5表に示した。)

第5表 事後の進路相談の事例

キャリアアセスメント評価票から (一部抜粋、下線は筆者による)
【面接2】回答内容から家庭での生活リズムは安定している様子がうかがえました。家庭での役割については、 <u>「決まっていませんが、皿洗いや洗濯をすることがあります。」</u> と答えました。
【職務遂行能力】OA作業のPC操作については、数値入力、ローマ字入力の基本的な操作は可能でしたが、 <u>読めない漢字が多くあり</u> 、他の読み方から一字ずつ変換したり、質問したりしながら遂行しました。実務作業では、 <u>数値や記号の記憶を保持することが難しい場面</u> がありましたが、課題の手順理解はよく、器用さも安定して取り組みました。

<p>【作業に関するセルフマネジメント・支援の手立て】 複数の指示を聞くと忘れてしまうことがありました。<u>聞いたことを平仮名で書き取ることはできるので、聞き取ったことをメモ用紙に書き、必要な時に参照する習慣を身に付けるとよいでしょう。</u></p> <p>【対人技能】返事や報告は的確にできました。初めのうちは、<u>分からない時に質問せずにしばらく考え込む様子</u>が見られましたが、次第に自分から質問するようになりました。</p> <p>【職業に関する自己理解】自己の課題面を認識し、<u>漢字の読みや口頭による複数の指示の理解についての対応方法を身に付けていくことが将来、仕事をしていく上で大事になると考えられます。</u></p>



ワークシート「これからの取り組み」から
私の目標1「わからない時や気づいた事はすぐに質問や相談をする」
取り組み ○学校で→現場実習、職業体験、作業その他いろいろな勉強の時に気を付ける
私の目標2「よく見る、よく聞く、メモを取るなどして正確に覚える」
取り組み ○学校で→現場実習、職業体験、作業、係の仕事の時などに気を付ける ○家庭で→持ち物の準備
私の目標3「漢字やアルファベットを正確に覚える」
取り組み ○学校で→漢検6級を目指す ○家庭で→英語と漢字のドリルをやる
私の目標4「いろいろ経験を積む」
取り組み ○学校で→△△ホームの仕事を挑戦する ○家庭で→(家に持ち帰り検討)洗濯を干す、取り込みをする
私の目標5「あいさつなどをもっと元気に、はきはきする」
取り組み ○学校で→朝、職業体験、現場実習の時に言う

g 実態把握シート（教員用）

- ・教員がキャリアアセスメント受検前と受検当日の二度記入することに意味があると思う。校内と校外で取組が同じ生徒、違う生徒がいる。
- ・まだ現場実習を経験していない生徒については、受検前と受検当日の評価をする意味がある。

h ワークシート全体を通して

- ・「将来の生活」、「作業学習（職業）の取り組み」、「就職するために必要なこと」のワークシートは、キャリアアセスメント受検者への進路相談だけでなく、

他の生徒の進路学習の教材としても活用できる。

- 多くのシートがあるので、すべてのワークシートをファイリングして生徒の学習の記録として残せるとよい。相模原養護学校橋本分教室では、各ワークシートを整理して個々の生徒の進路学習のファイルに収めた。(作成したファイルの表紙を第13図に示した。)
- 各ワークシートを学校や生徒の実情に応じてアレンジして使用できるとよい。

- ワークシートが目の前にあることでそれを媒介として進めやすい。口頭だけのやり取りと比べテーマが明確になる。
- 「就職するために必要なこと」では、本人なりに「できた」と「だいたいできた」の間に差を付けて○を付けていた。その理由を聞き取るのが良かった。
- 事後の進路相談で、キャリアアセスメントの引率教員が当日の様子を想起させる的確な質問をする等の教育的な関わりがあつて良かった。

c 活用方法の広がり

- ワークシートは進路相談の場になかった教員と後から回答状況を共有するためのツールになる。
- 今回はキャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例という扱のだが、現場実習における進路相談のモデルとしても意味がある。

ウ 藤沢養護学校鎌倉分教室における実践

塩沢(2014)は、事前・事後の進路相談で使用するワークシートを一部改変し「自分のことアンケート」を作成して進路相談モデル例を実施した。進路相談の成果として、対象生徒による作業学習(職業)の取組とキャリアアセスメントの取組の自己評価に、担任による評価と検査担当者による助言を他者の視点として取り入れることにより自己理解に深化が見られたこと、事後の進路相談とキャリアアセスメントの評価が現場実習の目標設定に有効であったこと等を挙げている。

エ 考察

進路相談モデル例の流れ、各ワークシートの内容について、実施上の大きな問題は見られなかった。各ワークシートを生徒の実態や使用する場面に合わせてアレンジできる形で学校に提供することにより、進路相談への活用が図りやすくなると考えられる。また、ワークシートは個別の進路相談での使用を想定して開発したが、ワークシートによっては、キャリアアセスメント受検者以外の個別の進路相談、集団での進路学習にも効果的に使用できると思われる。

本研究の助言者からは、「作業学習(職業)の取組」「就職するために必要なこと」に示された項目は進路指導経験の浅い教員にとって生徒の就労準備性を把握する視点になり、「実態把握シート(教員用)」は受検前と受検当日という場面の違いだけでなく、複数の担任がそれぞれ評価し合い実態把握の摺合せを行うためにも有効であろうと助言を受けた。

ワークシートを使用する効果として、相談の機会を設定しやすくなること、相談の内容が明確になること、進路相談が終わった後の生徒の学習の記録や教員間の共通理解のためのツールにもなることが挙げられる。

受検者本人の学びの側面では、事前の進路相談がキャリアアセスメント受検に向けたガイダンス機能を果たしていることが分かる。

第5表の事例で受検者はキャリアアセスメント評価

キャリアアセスメント
がくしゅう そうだん きろく
～学習と相談の記録～

事前の ガイダンス	A 将来の生活
	B 作業学習(職業)の取組み
	C キャリアアセスメント受検に向けて
キャリア アセスメント	D 業務日報シート
	E 自己理解シート
事後の 振り返り	F 作業の振り返りと教えてもらったこと
	G 就職するために必要なこと
	H これからの取組み
年 組	名前

第13図 ワークシートファイルの表紙

(ウ) 進路相談に関わった教員の気付き ～生徒の様子・相談のポイント・活用方法の広がり～

a 生徒の様子

- キャリアアセスメントの一週間後に事後の進路相談を実施したが、受検した生徒の記憶は確かだった。
- ワークシートを提示して個別に相談すると生徒は改まった場であることを意識し、しっかり考えられる。
- ピッキングという言葉聞いたことがあってもイメージできない生徒がいたが、受検して作業を体験することで職業理解が深まった。

b 相談のポイント

- 日頃慣れ親しんだ担任等でなくセンター職員という第三者の意見は生徒たちにとって聞き入れやすい。
- 教員と生徒がワークシートを通してやりとりしながら相談できる点が良い。

票の内容（下線部の記述）を踏まえた「私の目標」や「取り組み」を考えており、キャリアアセスメントの評価等のフィードバックが受検者自身の目標等の検討に役立ったことが分かる。塩沢（2014）の事例においても、キャリアアセスメントを活用した進路相談とワークシートが自己理解の促進や現場実習等の目標との関連付けに役立ったと言える。進路相談モデル例が、キャリアアセスメントにおける体験や評価を、その後の学習上、生活上の目標や取組につなげる役割を果たしたと考えられる。

進路相談に関わった教員の気付きから、事後の進路相談の深め方として、ワークシートを媒介として生徒との対話を丁寧に行うことが大切であることが分かる。「できた」から「できなかった」の自己評価の良し悪しだけに着目するのではなく、なぜその自己評価なのか等本人の意図を聞き取ることが大切である。また、進路相談を行う教員が振り返りを深めるための適切な支援を行い、その後の学習等につなげることも重要である。助言者からは、振り返りの学習は自己理解を深めるために大切であり、振り返りを促す働き掛けをしたり、課題を具体的な目標として捉え直したりする教員の力量も求められると助言を受けた。

働く体験を踏まえて振り返るという進路相談の流れはキャリアアセスメントにおいても現場実習においても同様であり、開発した進路相談モデル例は、各ワークシートを一部修正すれば、現場実習のための進路相談にも活用可能と考えられる。

調査研究協力校が作成した「進路選択に向けた高等部3年間のスケジュール」（第12図1～3）は、生徒が「働く体験」、「進路学習」、「進路相談」の見通しを持ち、進路選択に向けてのキャリアアセスメントの位置付けを知るために有効と思われた。研究1の調査2では、高等部3年間の積み上げを意識した進路学習計画の作成を今後の課題とした分教室が多かったが、学習計画作成の一つのモデルにもなるであろう。

研究のまとめ

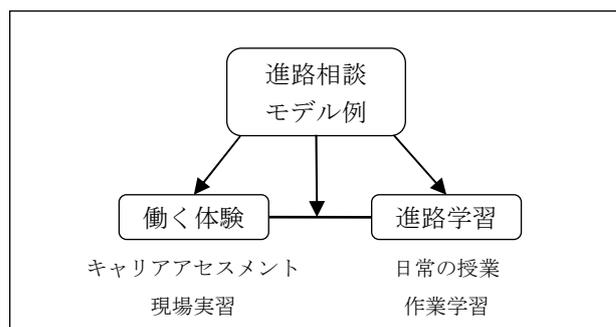
本研究では、県立特別支援学校分教室における進路相談及び進路学習の実施状況調査、キャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例の開発、試行を行った。

研究1では、進路相談及び進路学習の実施状況調査から、分教室においては現場実習に関する進路相談が概ね実施されているが、作業学習等の学習目標を生徒自身が意識することは課題であることが分かった。

研究2では、キャリアアセスメントでの体験を意味付け、振り返りを深め、就労準備性等の課題を日常の学習につなぐものとして、進路相談モデル例及びワークシートを開発した。調査研究協力校の試行では、体

験を基に振り返る進路相談を通して、作業学習、進路学習等の日常の学習を充実させることが示された。進路相談モデル例とワークシートは、キャリアアセスメント受検時だけでなく、現場実習のための進路相談にも活用可能と考えられた。

キャリアアセスメントを活用した進路相談モデル例は、体験的に働く学習を深め、就労準備性等の課題と学校での学習活動を関連付け、進路学習、作業学習等を充実させて、教育的側面から就労支援に寄与すると考えられた。（第14図）



第14図 進路相談モデル例の進路指導への活用

おわりに

本人を学習や進路選択の主体と捉えた進路相談を行うためには、本研究の進路相談モデル例で示した相談の手順やワークシート等のツールの整備だけでなく、生徒の考えや思いを丁寧に聞き取る支援者としての教員の在り方もまた重要である。

体験的に働く学習、進路相談、進路学習等の日常の授業を有機的に結び付けた進路指導は、生徒が相談したいと思う教員の存在と適切な教育的支援により、一層効果的に生徒一人一人のキャリア発達を支援できると考える。本研究の成果が各学校で活用され、進路指導の充実に資することを期待する。

末筆になったが、本研究に助言者としてご助言をいただいた文京学院大学松為信雄教授をはじめ、調査研究協力校、調査研究協力員の皆様に心から御礼申し上げる。

[調査研究協力員]

県立座間養護学校	三島 賢治
県立相模原養護学校	布施 大
県立藤沢養護学校	岩本 秀一
県立座間養護学校	青木 忠

[研究者]

特別支援教育推進課長	廣瀬 忠明
同課主幹兼指導主事	藤 聡志
同課指導主事	福田 裕志

同課指導主事	由谷 るみ子
同課指導主事	山田 良寛
同課指導主事	羽賀 晃代
同課指導主事	窪田 朗子
同課教育指導専門員	湯山 努
同課教育心理相談員	鳥畑 真理子
同課教育心理相談員	石田 望
同課教育心理相談員	津山 美佳
長期研究員(藤沢養護学校)	塩沢 恵子
[助言者]	
文京学院大学	松為 信雄

引用文献

原智彦・緒方直彦 2004 「第2章 主体的な進路選択
——進路学習の実践 1. 進路学習を位置づけた
進路指導」(松矢勝宏監修『主体性を支える個別
の移行支援 学校から社会へ』大揚社)

参考文献

相澤欽一 2007 『現場で使える 精神障害者雇用支援
ハンドブック』金剛出版

内海淳 2004 「第1章 新たな進路指導・『移行支援』
への転換」(松矢勝宏監修『主体性を支える個別
の移行支援 学校から社会へ』大揚社)

塩沢恵子 2014 「キャリアアセスメントの特色を踏ま
えた進路指導への効果的な活用に関する研究 —
進路相談事例と進路学習の実践状況の検討を通し
て—」(神奈川県立総合教育センター『長期研究員
研究報告第12集』)

山田良寛・廣瀬忠明 2013 「就労支援に向けたアセス
メントに関する研究」(神奈川県立総合教育セン
ター『平成24年度研究集録第32集』)